

J R東労組破壊の「真実の声」を断じて許さない横浜地本見解

2018年6月10日、突如として「真実の声」なるホームページがインターネット上に立ち上がり、J R東労組第36回定期大会（6月13日開催）において「組織破壊である」と確認された「J R東労組を憂う会」の結成主旨の抜粋を掲載した。そればかりか、匿名の投稿を毎日のように掲載し、中央本部を「残留執行部」と罵り、J R東労組第35回臨時大会（4月12日開催）で確認された「職場の声を尊重し、全組合員が納得と共感を持てる運動づくりで新たなJ R東労組を創り上げよう」というスローガンに基づき、組合員のための新生J R東労組を築かんとする中央本部ならびに地方本部への批判や誹謗・中傷を繰り返している。したがって、「真実の声」なるホームページは、事実を捻じ曲げ嘘と誤魔化して組織内に混乱を持ち込むものであり、ホームページの運営とホームページに投稿する者およびその行為は、組織破壊者および組織破壊行為として断じて許すことはできないことを横浜地本としてここに明らかにする。

「真実の声」には、横浜地本に対してもいわれなき誹謗・中傷が加えられている。9月24日付の投稿「青年部らしくなれ」には、なぜか出席者しか知り得ないJ R東労組青年部の中央常任委員会での内容が記載されている。そこには「東労組青年部定期委員会において、横浜地本で発言を希望していた横浜運輸区分会出身の委員の発言を、横浜地本青年部長の判断で発言者から外した。発言者の想いは、東京や水戸・八王子の思いと極めて近いために、自分たちの地本が四分五裂の状態にあることを知られたくない横浜地本青年部が闇に葬った」と記載されている。しかし、真実は全く異なる。横浜地本青年部は、18春闘で青年部員を置き去りにしてしまった反省に立ち、18春闘以降青年部員の声を集約し、その青年部員の声の一つにして発言することを常任委員会などで決めていた。そして、委員一人ひとりの発言原稿に目を通し発言者を確定していた。問題なのは、本人達のやり取りや思い、組織議論してきた内容も全く抜きに、中央常任委員会での議論の一部分だけを切り取り、あたかも横浜運輸区分会出身の発言者を排除したかのように描き出していることだ。事実の一部を切り取り、意図的に解釈し、発信者の都合の良いように捻じ曲げ「真実」として打ち出している点は、16年前にJ R東労組本部を突如辞任し、組織に混乱と分裂を持ち込んだ、いわゆる嶋田一味らが出した「猛獣王国」なるホームページと同質・同手法であると言わざるを得ない。

また、10月11日投稿の「ヤマグチさんの気持ちもわかる気が」という投稿には、「スト権の議論がほとんどできていなかった盛岡や仙台、横浜、そして大宮」というように記載されている。何やら『大敗北』という総括をしているのは、スト議論をしてこなかったからだ」という論調でまことしやかに語られているが、横浜地本は当時の中央方針、闘争指令に基づき、全力で指名スト・非協力闘争の準備を行ってきた。しかし、これが組合員の気持ちとかけ離れ、組合員の信用を失った。だからこそ主体的な総括を行い「大敗北」であったと総括をしているのである。

これまで本部「職場討議資料」をもとに18春闘の総括を深めてきた。多くの組合員・役員が「なぜこんなことになったのか、真実を知れてよかった」「俺もぶら下がっていた」「上部機関は間違わないと思っていた」「上にモノが言えない」と主体的な総括をしている。「真実の声」は、こうした自らに矢印を向け転換を図りながら新生J R東労組を創り上げようとする者への冒涇であり絶対に許すことはできない。

J R東労組の歴史は、これまでも組織破壊とのたたかひの歴史でもあった。横浜地本は「J R東労組を憂う会」と同様に「真実の声」を組織破壊と断定し、あらゆる組織破壊に屈することなく、全組合員と共に新生J R東労組の強化・拡大をしていく決意である。

2018年11月11日
東日本旅客鉄道労働組合
横浜地方本部執行委員会